

◆ 事業名 将来の国宝・重要文化財修理のためにウルシやキリの安定供給を考える

事業団体

日本漆アカデミー

■事業の目的

活用したふるさと文化財
の森

夜久野丹波漆林、三島町キリ林、
西会津のキリ林

ウルシ植栽適地の研修会、キリ実生苗
等見学及び漆・桐サミット2025を開催す
ることにより、ウルシ及びキリに関する
植栽・育成・加工の技術情報を共有し、
安定供給へ向けた連携強化を図る

活用したふるさと文化財
の森センター

活用した文化財建造物

■事業の内容

(1) 国産漆の安定供給に向けたウルシ植栽適地の研修会

土壌特性が明らかになっている夜久野丹波漆林でウルシ植栽適地に関わる情報共有を図るため、10月23日(木)～24日(金)に夜久野ふれあいプラザと夜久野丹波漆林でウルシ植栽適地研修会を行った。10月23日のウルシ植栽適地研修会では、NPO法人丹波漆理事山内耕祐氏が「福知山市夜久野町でのウルシ林造成」及び森林総合研究所東北支所チーム長小野賢二氏が「国産漆の持続的生産を目指したウルシ林の土壌特性」を講演した。10月24日の植栽適地研修会の現地見学では、小野賢二氏が10月21～22日に掘り取った4土壌断面を用いて、植栽に適した土壌の特徴や見るべきポイントを解説した。植栽適地の研修会には京都府や岡山県等から13名が参加した。

(2) 国産桐の安定供給に向けたキリ実生苗等見学

キリ実生苗育成技術及びキリ材乾燥・加工技術等の普及啓発を図るため、11月20日(木)に会津農林高校でキリ実生苗育成技術及び斎藤桐材店でキリ材乾燥・加工技術の見学を行った。キリ実生苗見学では元福島県立会津農林高等学校教諭須藤聖一氏が福島県立会津農林高等学校におけるキリ苗の育成法等を紹介した。その後、斎藤桐材店で斎藤桐材店斎藤洋一氏が独特の色艶がある「光る桐」の作成技術を解説した。キリ実生苗等見学には山梨県や茨城県等から9名が参加した。

(3) 「将来の国宝・重要文化財修理のためにウルシやキリの安定供給を考える」と題した漆・桐サミット2025

国宝・重要文化財修理に向けてウルシやキリの安定供給を図るため、「将来の国宝・重要文化財修理の



ウルシ植栽適地現地見学



キリ乾燥・加工技術見学



会津漆器工房見学



漆・桐サミット2025

◆ 事業名 将来の国宝・重要文化財修理のためにウルシやキリの安定供給を考える

のためにウルシやキリの安定供給を考える」と題し、漆・桐サミット2025を11月21日(金)～22日(土)に福島県会津若松市の会津稽古堂と喜多方市の大和川酒蔵北方風土館で開催した。11月21日午前中の開会式では、福島県知事内堀雅雄氏、会津若松市長室井照平氏、喜多方市長遠藤忠一氏、日本漆アカデミー会長田端雅進氏が挨拶した。その後、東京藝術大学名誉教授三田村有純氏が「国産漆の特性及び可能性」及び会津里山森林資源育成研究会会長星比呂志氏が「国産桐の安定供給に向けた取り組み」の基調講演を行った。昼食をはさみ「漆」をめぐる学際的な最新の研究成果等に関わる3件のポスター発表と会津漆器及び会津桐の展示を行い、会津塗及び会津桐の情報を共有した。午後、講演会「国産漆と国産桐を生かした地方創生」では、石田琵琶店代表石田克佳氏が「キリ材を生かした琵琶制作」、NPO法人丹波漆副理事長大藪泰氏が「NPO法人丹波漆の漆生産、その訳とこれから」、会津塗技術保存会会長須藤靖典氏が「会津塗を生かした漆器制作」、筑波大学芸術系准教授宮原克人氏が「会津地方におけるアートプロジェクト」、輪島市役所産業部輪島塗世界ブランド化推進室参事細川英邦氏が「能登半島地震後の輪島市の取り組み」を講演した後、国産漆と国産桐を生かした地方創生について議論した。11月22日はワークショップ「会津漆器と会津塗を体験し、素材や道具を考える」や会津漆器工房見学等を行った。今回の漆・桐サミット2025には青森県、岐阜県、京都府等から116名が参加した。

■事業の成果

●ウルシ植栽適地の研修会を通じて、適正な植栽場所の判断能力が向上し、国産漆の安定的かつ持続的な生産体制の構築に向けた具体的な一歩を踏み出すことができた。

●キリ実生苗見学や会津若松市と喜多方市で開催した「漆・桐サミット2025」により、国宝・重要文化財の修理に不可欠な国産ウルシ・キリの安定供給体制づくりを前進させることができた。また、関係者間の理解促進や情報共有が進み、国産漆・桐の新たな需要創出につながる成果を得た。

■事業の実施後の課題

●今回のウルシ植栽適地研修会は、西日本中心の参加にとどまり、主要産地である北日本や東日本の生産者を十分に巻き込めていない。国産漆生産の拡大に向けては、主要産地の生産者が参画しやすい研修体系の構築が課題である。

●キリ実生苗見学や漆サミット等の参加者はリピーターが中心であり、一般層や若年層に対する情報発信が十分に行き届いていないことから、新規参加者を取り込めていない状況にある。今後は、ターゲット層に合わせた広報媒体の選定や、魅力が伝わるコンテンツの発信等により、新規層にも参加を促す広報手段の強化が求められる。

■今後の展開

●国宝・重要文化財の保存修理のため、修理技術者や関係者を対象として、保存修理に使用される国産漆の特性を学ぶ講演や見学を行う予定である。

●国産漆の安定的な増産体制を構築するため、漆生産者や行政関係者を対象として、成長の優れたウルシ苗の生産方法や、ウルシの健全な成長を促す育林技術に関する研修会を開催することを提案する。

◆ 事業名 檜皮葺と茅葺を知る ―修理現場から考える―

事業団体	特定非営利活動法人 文化遺産保存ネットワーク河内長野
活用したふるさと文化財の森	金剛寺境内林
活用したふるさと文化財の森センター	
活用した文化財建造物	長野神社本殿・摩尼院書院 ・建水分神社本殿・越前敦賀の民家

■事業の目的

- 修理用資材の確保に対する支援体制づくり
- 修理用資材に関する効果的な普及啓発手法の開発

■事業の内容

①講演会

1. テーマ 檜皮葺、茅葺建造物の修理の現状と課題
2. 日 時 令和7年9月28日(日) 13時00分～14時00分
3. 場 所 天野山金剛寺講堂(大阪府河内長野市天野町996)
4. 講 師 丸石暢彦氏 (公財)文化財建造物保存技術協会
5. 参加者 20人
6. 内 容 ・天野山金剛寺講堂において、主催者の開講挨拶の後、講師の(公財)文化財建造物保存技術協会の丸石暢彦氏により13:05から講演会が始まった。講演では「ふるさと文化財の森とは」、「選定保存技術とは」、「建造物保存修理事業とは」などについて詳細な説明があり、引き続き、檜皮葺と茅葺屋根の修理における現状と課題について解説があった。2～3の質疑応答の後、14:00に講演は終了した。

②講義と見学・ワークショップ

1. テーマ 檜皮採取実演と体験会
2. 日 時 令和7年9月28日(日) 14時05分～16時10分
3. 場 所 天野山金剛寺講堂及び金剛寺境内林(大阪府河内長野市天野町996)
4. 参加者 20人
5. 内 容 金剛寺講堂にて14:05から、実演指導者の(株)谷上社寺工業の川田徳宏氏から、檜皮採取や檜皮葺に関する事前講義があった。14:45頃から会場を境内林に移し、(株)谷上社寺工業の職員による檜皮を剥ぐ作業を見学した。15:20頃には講堂に隣接して設営された実演会場に場所を移し、仮設された軒模型に檜皮を葺く実演作業を見学した。また、剥いだ檜皮を成型する檜皮拵えの実演作業を実演者の解説を聞きながら見学した。16時過ぎに全日程を終了し、解散した。



①講演会



②講義と見学・ワークショップ



③見学会



④見学とワークショップ

◆ 事業名

③見学会

1. テーマ 檜皮葺・茅葺文化財建造物見学会
2. 日 時 令和7年10月5日(日) 12時30分～16時00分
3. 場 所 重文長野神社本殿、重文建水分神社本殿、重文摩尼院書院
4. 講 師 萩原安寿氏 大阪府教育庁文化財保護課
5. 参加者 17人
6. 内 容 参加者は、三日市町駅前に集合後、マイクロバスにて各見学場所に移動し、講師の大阪府教育庁文化財保護課の萩原安寿氏から解説を受けた。最初に重文長野神社本殿を見学、次に建水分神社に移動し、本殿において同神社宮司の岡山博美氏から維持管理に関する課題などを交えて詳細な解説があった。さらに境内にある摂社南木神社について講師から解説があった。その後、重文摩尼院書院に移動し、講師より詳細な解説を受けて見学を行った。この後、三日市町駅に戻り、16時過ぎに解散した。

④見学とワークショップ

1. テーマ 茅葺屋根修理現場見学と体験会
2. 日 時 令和8年2月1日(日) 13時00分～15時30分
3. 場 所 日本民家集落博物館(大阪府豊中市服部緑地)内、越前敦賀の民家(大阪府指定文化財)
4. 参加者 27人
5. 内 容 参加者は、日本集落博物館内の越前敦賀の民家に参集し、日本民家集落博物館の山城学芸員より、茅葺屋根葺き替え工事中の同民家についての詳細な解説を受けた。その後、茅葺屋根修理工事の施工責任者である大西茅葺の大西謙之氏より工事概要、伝統工法等の概説があった。
体験会における注意事項などの説明の後、参加者は民家に設置された足場により、大西謙之氏の監督、大西茅葺の茅葺職人たちの指導の下、茅下ろしを中心として差し茅などを体験した。
体験会の後は参加者が各自博物館内の民家を見学し、15:30頃に解散した。

■事業の成果

●修理用資材の確保に対する支援体制づくり

檜皮の採取現場を見学することにより、参加者が檜林に入り、山の状況を身近に知ることができた。参加者からは採取方法、山についての質問があり、資材確保の支援の重要性を周知することができた。

●修理用資材に関する効果的な普及啓発手法の開発

屋根修理現場での体験、特に茅葺屋根での茅下し体験は、参加者に新鮮な驚きとともに作業の大変さを実感していただき、身近に感じていただいた。普及啓発に体験が重要なポイントとなることがわかった。

■事業の実施後の課題

●修理現場の見学・体験会については、早い段階から工事関係者との調整が必要である。しかし、施工者と発注者との契約日や工事計画の変更により見学・体験会実施日が変更を余儀なくされる状況が生じるため、参加者に対して周知の時間が不足する場合がある。

●また、採取現場の見学は、山の中になるため安全な場所での開催と見学場所への安全なルート確保が毎回、課題となる。

■今後の展開

●今後も、文化財建造物屋根修理現場の状況を見学することにより、植物性屋根資材の必要性和重要性を理解していただくために、この企画を継続したい。

●今回、参加者も一般参加者以外にヘリテージマネージャー、建築士、建築関係の大学生、大学院生の参加があったことから、より関心度の高い層にも参加を積極的に広報し、プログラムを組んで行きたい。

◆ 「漆文化をつなぐ」 普及啓発事業

事業団体 日本うるし掻き技術保存会

活用したふるさと文化財の森 浄法寺漆林

活用したふるさと文化財の森センター

活用した文化財建造物 日光東照宮 陽明門

■事業の目的

- ・修理用資材の確保に対する支援体制づくり
- ・修理用資材に関する効果的な普及啓発手法の開発
- ・修理用資材の育成・採取・加工に関する活動
- ・修理用資材の育成・採取・加工に関する担い手の確保
- ・修理用資材の育成・採取・加工に関する他組織との連携・情報共有

■事業の内容

(1) 漆の文化と歴史を巡るツアー

実施日：令和7年10月4日（土）～5日（日）

概要：安比川流域における漆文化の歴史を紐解き、当地域において脈々と受け継がれてきた漆文化を体感し理解を深めていただくため、浄法寺漆林での漆掻きの実演や滴生舎での塗師の仕事及び木地師の仕事、「浄法寺漆共進会」及び「鍛冶工房」見学を行うツアーを実施した。

参加数：6名（一般募集）

行程：二戸駅＝自助工房四季の里（昼食）＝小西美術工藝社（社屋見学）＝鍛冶工房見学（漆ろうそくづくり体験）＝二戸市内（漆器で夕食）＝二戸市内（宿泊）
二戸市内＝漆の品評会「漆共進会」（見学）＝ふるさと文化財の森（漆掻き実演見学、体験）＝二戸市内（昼食）＝滴生舎（見学）＝特別講演（拝聴）＝なにやーと物産センター（買い物）＝二戸駅

講師等：遠藤 由也氏（漆掻き実演、小西美術工藝社社屋見学関係）
大道口 あゆみ氏（漆ろうそく作り）

(2) 漆産業技術と漆を知るワークショップ

①実施日：令和7年11月8日（土） d47 MUSEUM

概要：漆掻きや漆塗りの実演・体験、漆PR動画の放映、外国人向けの説明やリーフレット（日本語、英語）の配布、若手職人とのトークイベント（職人との近い距離感での意見交換会）、ふるさと文化財の森啓発（資源確保について）を通じて理解を深めてもらう。

内容：① 漆掻き実演・体験

② ワークショップ（漆うつわ塗）【参加者5名】

③ 若手職人とのトークイベント【参加者約35名】

④ 外国人向けの説明やリーフレット（日本語、英語）の配布

⑤ 道具等展示によるPR

◆ 「漆文化をつなぐ」 普及啓発事業

②実施日：令和7年11月22日（土）、23日（日） 東京国立博物館（平成館）

目 的：ユネスコ無形文化遺産「伝統建築工匠の技 木造建造物を受け継ぐための伝統技術」のつながりを活かし、10月～12月に首都圏で工芸品などに関心を持った方が多く集まる場で、漆掻き、漆塗りの実演やワークショップを実施し、文化財修復を下支えする漆の役割などを、一般の方々に広く周知する。

内 容：① 漆掻き実演・体験【参加者約250名】

② ワークショップ（漆うつわ塗）【参加者19名】

③ 外国人向けの説明やリーフレット（日本語、英語）の配布

④ 漆器等の販売



【漆掻きの実演】



【漆うつわ塗】



【漆掻き体験】

■事業の成果

●漆の文化と歴史を巡るツアー・・・漆掻き実演体験や漆ろうそく作りなど、当市ならではの体験を、一度のツアーで複数を経験出来ることにより、漆文化を改めて深く学習する行程として、大変満足度があつたことがアンケートへも現れていた。ふるさと文化財の森を通じた漆文化のPRにより、再度の来訪意欲につながつた。

●漆産業技術と漆を知るワークショップ・・・若手職人とのトークイベントでは、定員に対し、立見席で参加をされる方が出るほど多くの方々が来場した。さらには、多くの方々が、終了後にも職人と直接意見交換や漆掻き体験を希望する長蛇の列ができた。

今まで、職人を志した経緯や体験談等を直接職人から聞く機会が無かつたことから、改めて必要性を実感することができた。

また、参加した職人は、参加者との様々な会話を通じて、一般の方が漆について理解を深めることができるポイントと、それを伝えることができる人材の育成へつながつた。

■事業の実施後の課題

漆の文化と歴史を巡るツアーについては、ツアー行程を漆に特化した内容として実施した結果、漆を本格的に学びたいという参加者の満足度は非常に高い結果となるが、一方で幅広いターゲットの参加者には文化財を学ぶという特性上難しい部分もあると感じられた。

また、d47 MUSEUMでの開催は、年齢層の若い方向けに情報発信を行った結果、職人とのトークイベントへは興味を示す方が多かつた一方で、漆うつわ塗ワークショップなどの参加者は他のイベントと比較し少ない結果となつた。

■今後の展開

国内観光客のみならず、外国人観光客への周知も必要であることから、集客が見込める場所でのイベントを継続するとともに、漆掻き実演の実施場所については効果的なイベント箇所の選定に今後とも努めたい。

また、イベントはワークショップとトークイベントとの部単位で内容を編成するなどし従来よりの漆掻きの実演や漆うつわ塗のワークショップに加え、より知識を学びたい、職人の仕事についても聞いてみたいという参加者へのニーズへも対応した内容で検討していきたい。

◆ 森が支える日本の技術 2025公開セミナー

事業団体



公益社団法人
全国社寺等屋根工事技術保存会

活用したふるさと文化財 の森センター

京都市文化財建造物保存技術
研修センター

活用した文化財建造物

清水寺(境内)
園城寺(境内)

■事業の目的

檜皮葺、柿葺、茅葺という植物性の材料を使って葺く伝統的屋根工事技術は世界に誇れる日本の優れた文化の一つであり、これらの技術を後世に伝え残すことが伝統技術を保存する団体としての責務だと考える。そのためには、文化財建造物保護のために必要な植物性資材の原材料の育成及び使用方法(技術)や人材(技術者)の育成を中心として、保存技術について広く一般の方々を対象に普及啓発を図る。そして多くの人に当該事業を通じ、文化財保護における資材の重要性の意識を高め、知識習得の場を提供することを目的とする。

■事業の内容

◆開催プログラム

(1)伝統技術の実演

1. 植物性の資材で葺かれる伝統的建造物を支えるための技術を紹介

日 時 : 令和7年10月1日(水)・10月2日(木)9:30~16:00

場 所 : 清水寺境内特設テント

対 象 : 一般参加者、文化財修理に携わる者

内 容 : 檜皮葺・板割り 実演と説明、竹釘打ち体験、
当会制作DVD上映、道具の展示

2. 資材確保への取組(パネル展示)

日 時 : 令和7年10月1日(水)・10月2日(木)9:30~16:00

場 所 : 京都市文化財建造物保存技術研修センター

対 象 : 一般参加者

内 容 : (公社)全国社寺等屋根工事技術保存会がこれまで
行ってきた資材確保の取組とその資材の重要性を紹介

3. 檜皮採取実演 見学会

日 時 : 令和7年11月8日(土)10:00~15:00

場 所 : 園城寺(三井寺) 境内林(滋賀県大津市園城寺町246)

対 象 : 一般参加者

内 容 : 当会檜皮採取指導者による技術の実演

協 力 : 園城寺

(2)資材を育む研修

文化財講座

日 時 : 令和7年10月1日(水)10:00~12:00

場 所 : 京都市文化財建造物保存技術研修センター

講 師 : 八幡市立松花堂庭園・美術館長 平井 俊行 氏

対 象 : 一般参加者、文化財修理に携わる者

内 容 : 「近世の植物性屋根材の変遷について」



清水寺境内特設テント



パネル展示



檜皮採取実演



文化財講座

◆ 森が支える日本の技術 2025公開セミナー

(3)リーフレット等広報物の配布

本年度も国内の観光客のみならず外国人も対象に日本版と外国語版のリーフレットを配布。さらに会場内にモニターを設置し、技法紹介のDVD上映も行いました。

(4)SNSを利用した広報の実施

SNSを活用し、各種プログラムの広報にネット媒体を使用することで、文化財に関心をもつ人材の掘り起こしと、文化財を後世に残すための技術と資材確保のための取り組み、その活動の重要性を一般の方々に紹介しました。



清水寺境内特設テント

■事業の成果

天候にも恵まれた今年度の事業は、2日間にわたり世界中から多くの参加者を迎えることができました。日本の伝統文化を広く発信し、貴重な体験の場を提供できたことは、非常に意義深い成果であったと感じております。特に園城寺の参道で行った檜皮採取の実演は、普段目にする事の出来ない山中での手仕事を間近に披露する貴重な機会となりました。リピーターの方も多く、「材料確保の過程を知り、日本人の繊細な感性と技術の奥深さに感銘を受けた」との声を多数頂いております。

1000年以上の歴史を持つこの技が文化財を支えていることを、今後も日本のみならず世界へ伝えていくべく、本事業を継続していく所存です。今年も多くの方々のご協力により、無事に開催できましたことを心より感謝申し上げます。

■事業実施後の課題

(1)プログラムの内容について

今年度は若手の担い手による檜皮葺と柿板割りの実演を行い、職人の手技に多くの関心が寄せられました。恒例の竹釘打ち体験も好評で、大勢の方に楽しんでいただけました。次年度以降も、参加者の記憶に残るような充実した内容を実施していきたいと思っております。

(2)場所の課題について

観光客も多く集客も見込まれる京都近郊で事業が行われることは今後も望ましいですが、それ以外でも神社仏閣に限らず観光客の多く集まるような場所で行うのも視野に入れておきたいと思っております。

(3)広報の課題について

SNS等を使った広報はもちろんのこと、これからも如何に多くの方の関心を得ることができるのかを考えながら地道に取り組んでいきたいです。また、従来のポスターや紙面での広報も少なからず効果があるので引き続き行っていきたいと思っております。

■今後の展開

これからも多くの方が日本に注目をし、そして来日してくると思われまます。京都に来られる方々というのは、日本の文化を見たり体験したりすることを楽しみにしてこられるのだと思っております。この様な方々に我々の技と文化を知ってもらうためにも来年度以降も変わらずこの事業を続けていきたいと考えています。その期待に応える為にも新たな魅力的な実演や体験の模索、そして時代の流れに即した発信等を考えていく必要があると感じます。そして地道ながらもこの様な活動を引き続き行っていく事で少しずつではありますが、我々の仕事の認知度を向上させ、日本の伝統文化の素晴らしさをより一層国内外に広めていきたいと思っております。

◆ 事業名 日名倉山茅場の茅の普及啓発事業

事業団体 株式会社くさかんむり

活用したふるさと文化財の森 日名倉山茅場

活用したふるさと文化財の森 センター なし

活用した文化財建造物 なし

■事業の目的

- 修理用資材の育成・採取・加工等の体験
- 修理用資材の育成・採取・加工等に係るシンポジウム・講演会等
- 修理用資材の育成・採取・加工等に係る研修会・講義
- 修理用資材の育成・採取・加工等に係る他組織との連携、情報共有等

■事業の内容

(1)【茅場のシンポジウム】日名倉山茅場から考える里山の未来—全国の茅場の事例を学びながら—

■日 時 2025年7月12日(土)13時00分～16時00分

■会 場 愛の村パーク(〒707-0401 岡山県美作市後山59)

■参加費 無料

■参加者 60名

■講 師

阿蘇茅葺工房 代表 植田龍雄氏 一般社団法人日本茅葺き文化協会 理事 沖元太一氏

有限会社富士勇和産業 代表 長田友和氏 一般社団法人金ヶ崎産業開発公社 佐藤誠氏

■内 容 第1部では日本全国から茅場の管理者を招き、それぞれの地域が取り組みや、抱えている課題について情報共有を行なった。第2部では登壇者全員でパネルディスカッションを実施した。茅場を管理することの良さや、茅の可能性について議論をした。

(2)茅葺き体験会 【秋の日名倉山満喫プロジェクト第一弾】茅葺き職人体験!茅葺きオブジェづくり

■日 時 2025年9月28日(日)10時00分～16時00分

■会 場 ベルピール自然公園(〒707-0401 岡山県美作市後山1590-3)

■参加費 1,000円

■参加者 10名

■講 師 一般社団法人日本茅葺き文化協会 理事 沖元太一氏

■内 容 茅場のあるベルピール自然公園敷地内の広場にて、茅葺き職人から技術と知識を学ぶ体験会を実施した。オブジェ作りを通し、日名倉山の茅や、茅葺きの技術に触れてもらう機会となった。茅場の見学と茅葺きにまつわる講義も実施した。完成したオブジェは常設した。

(3)茅刈り体験会 【秋の日名倉山満喫プロジェクト第二弾】茅刈り職人体験!日名倉山の茅を収穫しよう!

■日 時 2025年11月22日(土)10時00分～16時00分

■会 場 ベルピール自然公園(〒707-0401 岡山県美作市後山1590-3)

■参加費 500円

■参加者 20名

■講 師 阿蘇茅葺工房 立石 佑樹氏

■内 容

茅刈り職人を招き、地元向けの茅刈り研修及び、一般の人向けの体験会という形で実施した。茅刈り職人から茅の刈り方、束ね方の講義を受け、各自茅刈りを実施した。また、最後に屋外で乾燥させる「島立」という方法を学び、乾燥させるところまで実施した。

◆ 事業名 日名倉山茅場の茅の普及啓発事業



南部茅の事例紹介



パネルディスカッション



茅葺きオブジェづくりの様子



茅刈り職人によるレクチャー

■事業の成果

●シンポジウム:①地元の人の茅場への理解②地域内での利用

①茅場のある美作市、後山地域からの参加者が多く、地元でススキ草原としては有名である日名倉山の茅場が茅葺きの材料としても品質が良く、かつ毎年火入れの努力によって保たれているというような情報を理解することにより、地域資源として保全していくことの必要性・重要性を理解してもらう場になった。

②イベント後、岡山県内の建設会社より相談があり、岡山県津山市での茅葺き工事にて日名倉山の茅が利用されることが決まった。

●茅葺き体験会:①茅葺きの身近さの体験②茅葺きの明るい未来の理解

①身近な素材を使用し、茅葺き職人から実際に利用する簡便な技術を学ぶことで、「茅葺き」が観光の対象として「見る」ものから、自ら携わることも可能である「関わり」の対象として捉え直すことができた。

②講師から今の日本と海外の茅葺きの事情や茅葺きの魅力について学ぶことができた。日本では若い茅葺き職人が増加し、海外、特にオランダなどでは茅葺きの新築が毎年建っていることなどを聞いた参加者は、茅葺きが古いものではなく、現代も活き活きと輝き、未来に向かっていくことを理解することができた。

●茅刈り体験会:①「収穫する」感覚の理解②茅刈りプレーヤーの獲得

①真っ直ぐなススキを選んで鎌で刈り取って、余分なゴミを除去して根元を揃えて結束して「茅」にする。それを現地で島立てして冬場の間乾燥させるという一連の作業を体験することによって「茅」という茅葺き資材を生産する仕組みを理解することができた。

②地元の後山地区でもこれまで茅刈りに関わってこなかった若い世代の人が関心を持って実際に参加してくれるようになった。

■事業の実施後の課題

●継続した茅刈り体験の実施:普段から地元後山地区では茅刈りの新しい担い手募集の取り組みをしているが、今後も継続化するほうが良いと考える。

●地元での茅の利用:今までは口コミに近い形での茅の販売だったため、経路と数量が限られており、地域にある文化財等に利用されることが少なかったが、今年度の事業によって地域内外の茅葺き関係者に日名倉山の茅の再認知が始まったので、岡山県内での利用を積極的に推進していく必要がある。

●山焼きへの対応:本事業では山焼きへの直接的な普及啓発活動ができなかったが、毎年の山焼きによって良い茅が保たれてきたことが事実である。しかし実施の継続について課題が多くあり「山焼き」は地域努力だけで解決できるのではなく、管轄行政・官庁も含め存続に向けた支援が必要になってきている。

■今後の展開

●2026年度は地元の予算やボランティアベースで、茅刈り茅葺き体験会を実施する予定である。また、今回生まれた美作市各所との連携は、事業推進の支えとなり成功の推進力となったこともあり、今後も継続して日名倉山茅場のさらなる発展のための協議・活動が行われていく予定である。

●「茅場のシンポジウム」は、毎年実施することによって茅場運営者のネットワーク化と定期的な情報交換による茅場運営の底上げになる手ごたえがあったので、全国各地で行われるような働きかけを行いたい。

◆事業名 徳島県三好市の茅(ススキ)の育成・採取・加工と茅葺きに係る普及啓発事業

事業団体	一般社団法人日本茅葺き文化協会	■事業の目的
活用したふるさと文化財の森	京柱峠茅場	○修理用資材の確保に対する支援体制づくり
活用した文化財建造物	・重要文化財木村家住宅(徳島県三好市東祖谷)主屋、隠居屋 ・重要伝統的建造物群保存地区 三好市東祖谷山村落合	○修理用資材に関する効果的な普及啓発手法の開発 ○修理用資材の育成・採取・加工に関する活動 ○修理用資材の育成・採取・加工に関する担手の確保

■事業の内容

(1) 茅(ススキ)の育成・採取・加工等の研修プログラム

〈夏季プログラム〉①【保存修理現場の公開】【茅の育成・採取・加工等の体験】茅葺き体験研修

令和7年7月19日(土) 会場:重要文化財木村家住宅 参加者:33名

参加者は13都道府県から大学生、留学生、教員、研究者を中心に、20代が65%を占め、平均年齢は32歳であった。木村家住宅の茅葺きの隠居屋の修理工事現場にて、3班に分かれ、地元の中平建工の職人を講師に、茅葺きの基本となる縄結びと模型を使った茅葺き体験、修理工事を担う藤原組の武内氏を講師に、木村家住宅主屋の間取りや構造の特徴の解説、設計監理者である文化財建造物保存技術協会の徳田氏を講師に、修理工事中である木村家住宅隠居屋のサスの組み方など特徴ある構造や修理工事の方針についての解説を実施。この3つを順番に巡って茅葺き体験研修とした。

②【育成・採取・加工等の体験】茅場の維持管理体験研修

令和7年7月20日(日) 会場:京柱峠茅場 参加者:24名

高知県梶原町の茅葺き職人である川上氏らの指導により、近年、茅の生産量が減少していることから、有効と考えられる夏の茅場の維持管理の方策として、青々と育つ茅の間に残る立ち枯れした古茅や雑草の除去、日陰をつくって茅の生育を妨げている樹木の伐採、それらを茅場の外に持ち出すという茅場の手入れを、指導者、参加者と毎年ここで茅刈りをしている三好市若林区の住民らがそれを学びたいと参加し、総勢40数名が共同して行なった。

③【茅の育成・採取・加工等に係る講義】茅葺き文化講座1

令和7年7月19日(土) 会場:東祖谷歴史民俗資料館(2階ホール) 参加者:29名

講師:三好市教育委員会社会教育課文化財係 宮田健一「三好市の茅場と茅の自給システム」

阿波のまちなみ研究会、空間計画研究所 喜多順三「落合集落の茅葺き民家の保存と活用」

落合重要伝統的建造物群保存協議会 会長 南敏治「落合集落の暮らし」

④【その他上記に係る事業】茅葺き民家宿泊体験・令和7年7月19日(土)～20日(日) 会場:重要伝統的建造物群保存地区内 茅葺き宿泊施設 参加者:18名

〈冬季プログラム〉⑤【保存修理現場の公開】【茅の育成・採取・加工等の体験】ひしゃぎ竹づくり体験研修・茅葺き見学研修

令和7年11月29日(土) 会場:旧落合小学校グラウンド、重要伝統的建造物群保存地区 三好市東祖谷山村落合、重要文化財木村家住宅(徳島県三好市東祖谷) 参加者:22名

参加者は10都府県から建築技術者を中心に集まり、平均年齢は43歳であった。2班に分かれて、地元熟練者を講師に、東祖谷の伝統的な壁の材料であるひしゃぎ竹をつくる体験、落合集落の解説見学と長岡家住宅および茅葺きの宿泊施設の葺き替え現場の見学を行なった。ひしゃぎ竹には、2～3年生の真竹を



①茅葺き体験研修



②茅場の維持管理体験研修



⑤ひしゃぎ竹づくり体験研修



⑥茅刈り体験研修

◆事業名 徳島県三好市の茅(ススキ)の育成・採取・加工と茅葺きに係る普及啓発事業

使用する。まず竹の節を抜いてから火で炙る。まんべんなく焼いた竹をかけやなどで叩いてひしゃいでいく。均等に叩き広がったら鎌で筋を入れて、1枚に開く。開いた竹の表面を濡らした布で艶がでるまで拭く。こうしてできたひしゃぎ竹は、土壁を保護し、耐久性を高める。集落内や木村家住宅などで、こうしたひしゃぎ竹が使われた実際の壁も見学した。

⑥【育成・採取・加工等の体験】茅刈り体験研修・・令和7年11月30日(日) 会場:京柱峠茅場 参加者:21名

講師は、毎年この京柱峠で茅刈りを行なっている三好市若林地区の熟練者と、夏のプログラムに続いて、高知県梶原町の茅葺き職人の川上氏ら。この地域では、近年葉が少ない茅束を求められるようになったこともあり、刈った茅の葉を丁寧にそぎ落としている。1束は直径10～20cm程度、2ヶ所で結束する。刈った茅を20～30束で円錐状のクロとして茅場に立てて、一冬乾燥する。さらに刈り残した茅やそぎ落とした葉くずなどをまとめて茅場から転がり落とし、茅場表面をなるべく明るくして生育を促す、川上氏らが「ボサまくり」と呼ぶ茅場の維持管理方法も学んだ。こうして、夏の茅場の手入れから冬の茅刈り、乾燥、保管のクロ立て、さらに茅刈り後の茅場の維持管理まで一連の作業を学んだ。

⑦【茅の育成・採取・加工等に係る講義】茅葺き文化講座2・・令和7年11月29日(土) 会場:東祖谷歴史民俗資料館(2階ホール) 参加者:22名

講師:徳島大学 教授 鎌田磨人「四国の茅と茅場の生態について」

祖谷穀物生産組合 事務局 杉平美和「祖谷の傾斜地農法と暮らし」

⑧【その他上記に係る事業】茅葺き民家宿泊体験・・令和7年11月29日(土)～30日(日) 会場:重要伝統的建造物群保存地区内 茅葺き宿泊施設 参加者:11名

■事業の成果

(1)地域内外の交流の場づくり・・四国は、茅葺き職人や茅場の作業の経験者の減少が極めて著しく、新たな担い手への技能や知識の伝承が急務。本事業では、四国の茅葺き職人をはじめとして、北海道から沖縄まで、全国から、茅葺き職人、大学生、留学生、瓦屋根職人、建築技術者、研究者、NPO団体など関心を持つ多様な人々が一堂に会し、課題を共有する貴重な機会を創出した。

(2)新たな支援体制づくり・・三好市によるこれまでの茅の自給を目指した茅場の造成や茅刈りは、保存地区の保存会のメンバーや市の担当者など、地域内の人々の熱意によって行われてきたが、本事業における地域外の人々との共同での作業を通じて、地域住民と参加者や講師との交流、参加者同士の交流を促し、新たな支援体制につながる地域の活動を広げることができた。また、地域外の人々との共同の仕組みやその方法論の構築に寄与することができた。

(3)茅採取、茅葺きの技術の継承と担い手育成のプログラム・・保存地区の茅採取や茅葺きは地域内の相互扶助で行われてきたが、一般の市民でもできる茅刈りや修理現場での補助作業を一貫したプログラムとして計画し、専門技術者や職人と共に体験することで、一般市民や学生、技術者がその技術や知恵を広く共有することができた。また、その中から新たな担い手の育成に繋げることができた。

(4)茅場の再生と茅生産量の回復・・これまで保存会メンバーらで行なっていた茅刈りでは、刈り残しや刈り取り後の整備が行えずに茅場の維持管理にも課題があり、茅の生産量も減少しつつあったが、本事業を通して、皆の力を合わせることで茅の質の向上と生産量の増大に繋げることができた。

■事業の実施後の課題、今後の展開

(1)地域内での茅の確保・・落合集落の茅葺きの維持のためには、京柱峠茅場の茅だけでは不十分である。落合集落に残る茅場の維持、管理の実施及び茅刈りの体制を整備することで、伝建地区内の荒廃した茅場の再生と、茅の質と量を向上することが課題である。

(2)茅採取、茅葺きの技と知恵の継承・・地域内の熟練者による技と知恵の伝承の機会は今後も残されているが、高齢化と過疎化によってその作業の実施は次第に難しくなっており、若い世代への継承は急務である。地域内のみならず、地域外でもその担い手を育成するためには、今回のようなプログラムの持続的な実施が求められる。

(3)四国での茅場の再生と茅の自給・・事業を通じて、茅刈りを行っている徳島県三好市の住民および職人らと高知県の梶原町の茅葺き職人らが共同して茅場の維持管理と茅刈りを行うことができた。四国における西の高知県梶原町と、東の徳島県三好市は四国の茅葺き文化が継承される数少ない地域であり、この2地域を拠点として連携を深めていくことで、四国内の茅場の再生と茅生産量の回復をはかり、四国内での持続的な茅生産の自給と生産体制の整備を目指す。